

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第103号

2025年2月15日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2025 年度総会・全国研究大会 概要

2025年度の全国大会は、慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されます。統一テーマは、“Australia-Japan Connections: Fostering Collaboration on Gender, Migration and Education”（オーストラリアと日本のつながり：ジェンダー・移住・教育における協働の推進）です。ジェンダー・移住・教育という領域が、日豪いずれの社会においても重要な課題であり、日本のオーストラリア研究の大きな論点であり続けてきたことは言うまでもありません。今大会ではオセアニア教育学会とのコラボレーションも含め、さまざまな視座から議論を深めていきたいと願っています。

大会1日目のシンポジウムⅠ “Australia-Japan connections: Fostering academic collaborations on gender and migration” では、日豪の気鋭の研究者をお招きし、ジェンダーと移住の交差（intersectionality）をめぐる最新の研究成果をご報告いただきます。大会2日目のシンポジウムⅡ “Australia-Japan connections: Fostering collaborations on education and civil society” では、中等教育・高等教育において日豪をつなげる研究・教育実践に取り組んでいる方々にご登壇いただき、市民社会を担う次世代の若者の教育における日豪交流の重要性とそのさらなる発展の可能性について議論します。

日時：2025年6月14日（土）・15日（日）

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス（〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1）

交通アクセス：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

会場責任者：塩原良和（慶應義塾大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

1日目：6月14日（土）

10:00-11:45 理事会

12:00 受付開始

12:30 開会セレモニー

13:00-13:40 特別講演

講演者：Amanda Nettelbeck（東大 CPAS 客員教授、アデレード大学教授）

※同時通訳あり

13:50-16:40 豪日交流基金（AJF）助成シンポジウムⅠ ※同時通訳あり

“Australia-Japan connections: Fostering academic collaborations on gender and migration”

（オーストラリアと日本のつながり：ジェンダー・移住をめぐる学術的交流の推進）

司会：塩原良和（慶應義塾大学）

報告：濱田伊織（モナシュ大学）

Hyein Ellen Cho（モナシュ大学）

Gracia Liu-Farrer（早稲田大学）

質疑応答・討論

17:00 懇親会（日吉キャンパス ファカルティラウンジ）

2日目：6月15日（日）

09:00 受付開始

09:15-11:15

・一般個別研究報告

・オセアニア教育学会提供セッション「変化する高等教育の動向からみえるもの：教育の質と社会的正義の観点を中心として」

登壇者：杉本和弘（東北大学）、伊井義人（大阪公立大学）、

青木麻衣子（北海道大学）、馬淵仁（大阪女学院大学）

11:15-12:15 昼食休憩

12:15-13:00 総会

13:00-15:30 豪日交流基金（AJF）助成シンポジウム II ※同時通訳あり

“Australia-Japan connections: Fostering collaborations on education and civil society”

（オーストラリアと日本とのつながり：教育と市民社会における協働の推進）

司会：濱野健（北九州市立大学）

報告：宮崎紗織（関西学院大学非常勤講師）

松本浩欽（履正社学術基盤センター）

西村昌紀（北九州市立大学大学院）

上條貴行（株式会社 KOKOS JAPAN 代表取締役/KOKOS International Sydney 日本ダイレクター）

コメンテータ：濱田伊織（モナシユ大学）

質疑応答・討論

15:30 閉会挨拶

2. 第13期第2回理事会報告

第13期第2回理事会

日時：2023年12月10日（日）15時～17時

場所：オンライン

出席者：朝水宗彦・阿部亮吾・飯笹佐代子・小野塚和人・加藤めぐみ・佐藤 渉・堤 純・友永雄吾・中澤加代・濱野健・舟木紳介・松本浩欽・馬淵 仁・安田純子・山内由理子の各理事、有満保江（監事）

次回開催校オブザーバー陪席：塩原良和

欠席：青木麻衣子・平野智佳子・前川真裕子の各理事、濱嶋 聡監事 ※敬称略

1. 濱野理事および陪席した塩原会員より、2025年度全国研究大会の進捗について報告があった。例年同様に、基調講演の登壇者はCPAS客員教授のAmanda Nettelbeck教授（アデレード大学）を予定しているとの報告があった。
2. 飯笹理事より、学会誌の編集状況について報告があった。
3. 中澤理事より、会報（第102号）の発行および本学会のFacebookの管理状況について報告があった。
4. 安田理事より、会報（第103号）の準備状況について報告があった。
5. 舟木理事より、ホームページの管理状況について報告があった。
6. 友永理事より関西例会（11月30日）の報告があった。また、山内理事と松本理事から東京外国語大学海外事情研究所講演会（2025年3月16日）を、当学会の関東例会と共催にすると報告があった。
7. 堤理事より、地域研究学会連絡協議会（JCASA）への参画状況について報告があった。
8. 堤理事より、新規入退会者が報告され、承認された。
9. 朝水理事より、会計の状況および会費の納入状況について報告があった。また、ホームページのレンタルサーバーの支払い方法の変更について報告があった。
10. 堤理事より、2026年度全国研究大会（2026年6月20日、21日）の開催校を静岡県立大学とすることが提案され、了承された。
11. 馬淵代表理事より、オセアニア教育学会との共同企画として、2025年度大会において特別セッション（仮称）を計画しているとの報告があり、審議の結果、企画を進めることについて了承された。共同企画に関わる研究発表は、2025年度大会の2日目午前に、個別研究発表と同時間帯に並行して行うことが了承された。
12. 塩原会員より、JSAA オーストラリア日本学会（Japanese Studies Association of Australia）のJoel Matthews 東京都立大学准教授から、2027年度のオーストラリア学会をJSAAの大会（日本で開催）との合同大会（共催）とすることが提案され、引き続き検討することとなった。
13. 佐藤理事より、機関誌「オーストラリア研究」の公開時期について、科研費の情報公開ルールの変更に伴い、紙媒体の冊子の発行から1年後にJ-Stage上でオンライン公開してきた現状を変更し、すみやかに即時公開する必要があるとの提案があった。議論の結果、提案通りに即時公開とする方向で準備することが了承された。
14. 堤理事と馬淵理事から、倫理規程の整備方針について説明があった。
15. 朝水理事から、国際文献社との2025年度の業務委託契約について説明があり、了承された。

3. オーストラリア学会 第35回地域研究会（関西例会）報告

友永 雄吾（関西例会担当理事）

2024年11月30日、追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所との共催で総持寺キャンパスにて「オーストラリアにおけるアジア系移民／留学生の新たな動向」をテーマにした地域研究会が開催された。本研究会では、京都大学大学院の博士課程に在籍する菊川翔太氏と龍谷大学大学院の博士課程に在籍するトラン・ラム・ティエンニー氏がそれぞれ研究成果を発表した。また、研究発表の合間を縫って、南出会員から図書館で開催中の戦前のシドニーで暮らした日本人商社員の写真展の紹介がなされた。

最初に菊川氏は「西オーストラリア州パースのブータン人社会 — デジタル空間の活用に着目して」と題し、1960年代以降のブータンの新聞記述や2024年3月の現地調査を基に、パースでのブータン人コミュニティ拡大の要因を分析した。特にFacebookやTikTokなどのデジタルツールが、移民コミュニティ形成に果たす重要な役割について詳細に論じられた。発表後、参加者から詳細な調査に基づく分析が評価された一方、西オーストラリアでブータン人留学生が増加している具体的な要因や他のエスニック集団との関係性について課題が指摘された。

続いて、トラン氏は「日豪の外国人留学生受け入れ政策の変遷とベトナム人留学生の移動パターンへの影響」と題し、日豪の留学生受け入れ政策に関する比較研究を発表した。日本は近年、留学生に長期滞在や就職の機会を提供しているのに対し、オーストラリアでは柔軟な政策を採用しつつも、その不安定性が留学生に影響を与える点が指摘された。発表後の質疑応答では、大局的な観点からまとめられた内容が高く評価される一方、日豪両国の留学生の進路に関するデータ分析の不足が課題として挙げられた。

本研究会では、デジタル技術や政策の影響を通じたアジア系移民・留学生の動向が多角的に議論され、今後の国際移住研究や教育政策立案に寄与する重要な知見が得られた。発表者の今後の更なる研究の発展が期待される。参加者は関係者を含み16名。

4. オーストラリア学会 第18回地域研究会（関東例会）報告

山内由理子（関東例会担当理事）

2024年12月14日、第18回オーストラリア学会関東例会が東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム2において開催されました。本例会は、アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）との共催で行われ、講演者としてアデレード大学のAmanda Nettlebeck教授（CPAS 招聘教授）をお迎えしました。Nettlebeck教授は「Colonial Violence, Memorial Culture and the State of Reconciliation in Australia」というテーマで講演を行い、オーストラリアにおける先住民との和解に関する最前線の研究成果を発表しました。

講演では、特に2023年に行われたVoice Referendum以降のローカルな「和解」の動きが取り上げられました。また、セトラー・コロニアリズムの歴史的背景や、和解プロセスにおいて直面する困難性についても詳細に説明されました。さらに、先住民の世界観と和解の概念がどのように交渉されているのかについても議論が深められ、これらのテーマに対する多角的な視点が提示されました。

当日は、オーストラリア学会関係者3名を含む約20名が参加し、オーストラリアの和解プロセスについて深く学び議論を交わす貴重な場となりました。

5. オーストラリア学会 第19回地域研究会（関東例会）のご案内

<開催日時、場所等>

日時：3月16日(日) 15:00-17:00

場所：東京外国語大学海外事情研究所（研究講義棟427号室）

開催形態：ハイフレックス（対面とオンライン双方）

講演会タイトル：「転換期の教育学の課題—オーストラリア中等教育の最前線より」

講演者：ポール・ワトソン（Paul Watson）氏（Emmanuel Catholic College 校長）
 押田貴久（おしだ・たかひさ）准教授（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）

共催：オーストラリア学会関東例会
 東京外国語大学海外事情研究所

6. 終身会員制度について

会員として長年にわたり本会の発展に多大な貢献をしたことへの感謝と、学会活動への参加継続を目的に、終身会員制度を導入することが、2021年度全国研究大会に併せて開催された総会にて承認されました。なお終身会員は呼称であって、会員種別ではありませんのでご注意ください。2022年度分の会費から対象となります。

【対象者】

会員のうち、次の(1)、(2)いずれにも該当し、本人からの申し出があった方を対象とします。

- (1) 一般会員（院生を除く）で、10年以上の会員歴を有し、当該年度から遡って10年間において会費を完納している方
- (2) 当該年度中に満70歳以上となる方

【資格】

終身会員の資格は、正会員と同等です。

【会費】

終身会員となるには、会費5年分に該当する額〔¥40,000〕を一括納入していただく必要がございます。なお終身会員の会費を納入いただいた後に退会をしても会費は返却できません。

【お申し込み方法】

- (1) 終身会員制度の利用を希望される方は、1月1日～2月末日までに事務局にメールにてその旨をご連絡ください。その際に①お名前、②生年月日、③現住所をお知らせください。
- (2) 事務局が10年間の会費納入歴を確認し、制度適用の可否をご連絡いたします。
- (3) 会費の振込用紙をご利用いただき、3月末日までに会費をお支払いください。

【その他】

終身会員になってから当初5年間は『オーストラリア研究』をご登録住所に送付させていただきます。ただし6年目以降は毎年、印刷物をお送りする際、次年度以降も印刷物の送付を希望されるかどうかを確認させていただきますので、印刷物に同封の返信用はがきにてご連絡ください。年度内最終日までにお返事がなかった場合には、「印刷物送付の希望なし」と見なして、印刷物の送付を停止させていただきます。あらかじめご承知おきください。

7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2024年5月に年会費を納入しても、2023年度未払いの場合、それは2023年度の会費となります。すなわち、2024年度は未納ということになります。また2022、2023年度未払いの場合、2022年度分の会費納入になります。

＜会費が未納となっている会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行しておりません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2024年3月発行、第37号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

8. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行しておりましたが、2020年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

9. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください(<http://www.australianstudies.jp/publish/youryou.html>)。

投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください(<https://www.australianstudies.jp/publish/entry-journal.html>)。2026年3月刊行予定の第39号の投稿は2025年8月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・飯笹佐代子 (s-iizasa@scs.aoyama.ac.jp) までお問い合わせください。

第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2025年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631

Email : asaj-post@as.bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <https://www.australianstudies.jp/publish/index.html>

10. 新刊書のご案内



小野塚和人著『外国人労働者としての難民——オーストラリアの農村部における難民認定者の受け入れ策と定住支援策』、春風社、2024年10月29日刊行、A5版製、326頁、5,940円(税込)、(ISBN 97848611109652)

難民を労働力として受け入れるには、どのような支援策が考えられるか? オーストラリアの農村自治体における、外国人労働者としての難民の誘致事業と支援実践を考察。成功例と失敗例の分析によって得られた知見は、生産年齢人口の減少が深刻化している日本の現状に対しても豊富な示唆を与える。

写真と紹介文との出典: 春風社ウェブサイト

<http://www.shumpu.com/portfolio/1036/>

【オーストラリア学会事務局】(各種届出・連絡先)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@as.bunken.co.jp

会費振込先 : 00190-3-157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当: 安田純子(会報/庶務担当理事)]